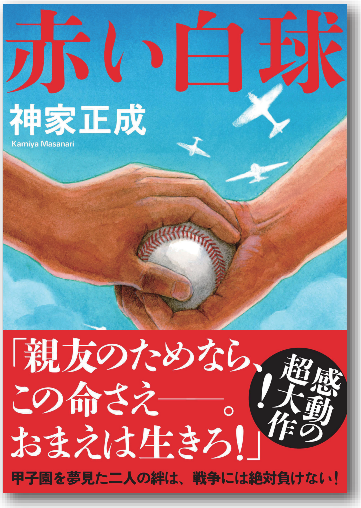
フリーペーパー　ご自由にお持ちください！　**赤い白球　好評発売中！**

赤い白球

戦前外地の夏の甲子園


赤い白球
神家正成
Kamiya Masanari
「親友のためなら、この命さえ――。おまえは生きろ！」
甲子園を夢見た二人の絆は、戦争には絶対負けない！

双葉社：472P
780円＋税
2021/8/6 発売
ISBN：
978-4-575-52488-8

下記既刊作品も好評発売中！
同じ世界観の現代自衛隊
ミステリー植木シリーズ3作と
関東戦国時代の『さくらと扇』
どれから読んでも楽しめます！

上段が作中年月、下段が物語の主な舞台です。　左記3作品は宝島社文庫、『さくらと扇』は徳間書店単行本。

2014年2月
南スーダン PKO

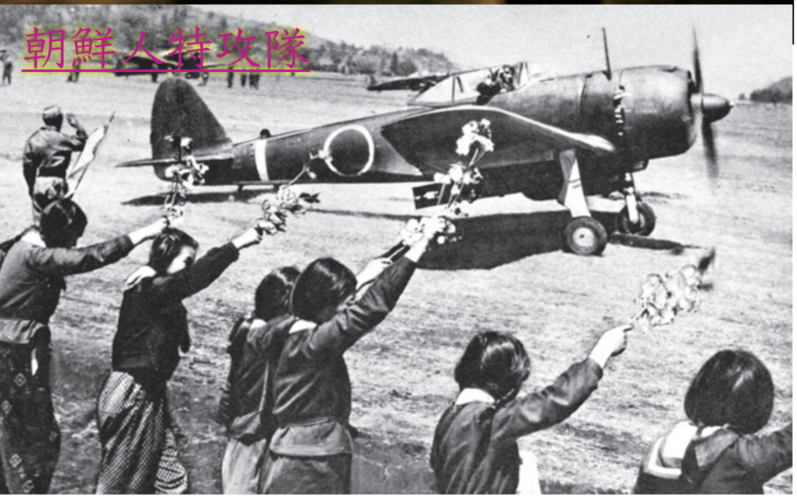
2015年3月
富士学校と東京

2017年4月
千葉県柏市

1582年～1615年
喜連川、古河、京都、大坂

さくらと扇
神家正成
秀吉、家康…
時の権力者から国を守った女たちの戦

朝鮮人特攻隊



隼――帝国陸軍一式戦闘機の愛称

2021/8
制作　神家正成

神家正成　公式ウェブサイト　https://kamiya-masanari.com/
右の QR コードを読み取ってください。

各作品の読後に楽しめるおまけ掌編をご提供しております。
日々雑記（ブログ）や「#記念日にショートショートを」、
自衛隊用語辞典、韓国辞典など随時更新中。Twitter や Facebook、
note にて最新情報を発信中。お気軽にフォローしてください。

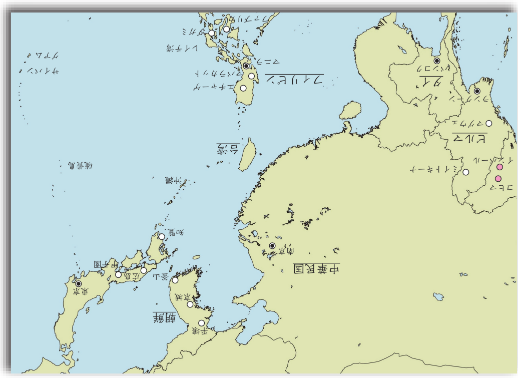
赤い白球　　高校野球 × 特攻隊

戦前外地の夏の甲子園と朝鮮人特攻隊を題材に
国境を越える熱い友情を描く！

こんな方にお勧めです！

- 熱いバディストーリーを読みたい方
- 野球好き（特に高校野球）
- 感動して泣きたい
- 冒険小説好き
- 戦記＆軍事小説好き
- 特攻について知りたい
- 民族について悩む方
- 中日ドラゴンズファン
- 帝国陸軍好き（零戦より隼派）
- 妹萌え
- 幼なじみ萌え
- 奇跡を信じる方

昭和14年（1939）の夏、日本統治下にある朝鮮の京城（現：ソウル）から物語は始まり、平壌、甲子園、東京、ビルマ、フィリピン、そして昭和20年（1945）の夏、九州の知覧へと……。


朝鮮
平壌
京城
釜山
広島
甲子園
東京
知覧
中華民国
南京
沖縄
硫黄島
台湾
コヒマ
インパール
ミイトキーナ
ビルマ
マグウェ
ラングーン
タイ
バンコク
フィリピン
エチャーゲ
マバラカット
マニラ
レイテ湾
タガミ
ファブリカ
サイパン
グアム

特攻を命ずる側
と
命じられる側

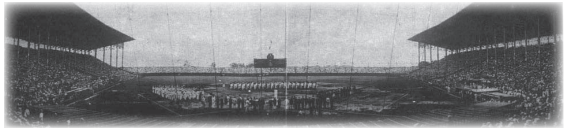
男の友情、幼なじみと妹

隼 × スピットファイア

支配民族と被支配民族

白球とバットを隼の操縦桿に持ち替えた、
龍の名を持つ二人の男の熱い物語です。

戦前と現在の甲子園球場



一九一五年（大正四）から始まった全国高等学校野球選手権大会——夏の甲子園は、大きな区切りの第百回大会を迎えていた。（P14）

次打者席に控えていた吉永が、白いユニフォームの左胸の朱い桜を揺らして近寄ってきた。桜の縁取りの中には、一中の朱い漢字が見える。（P20）

満洲と朝鮮の外地にある中学校が、初めて全国中等学校優勝野球大会に参加したのは、大正十年（一九二一）の第七回大会からだ。その時の朝鮮地方大会の参加校はわずか四校なのだが、その内の一校が仁川商だった。当時は朝鮮人選手はおらず、日本人選手だけだったが、歴史と伝統のある強豪校なのだ。（P48）

今回の第二十六回全国中等学校優勝野球大会は、紀元二千六百年奉祝行事にちなみ、「全日本中等学校体育競技総力大会」の一環として開催された。

開会式は、陸上や水泳の選手たちも参加して行われた。進軍らっぱで幕を開け、白衣の傷痍軍人が観戦する中、代表選手が力強く選手宣誓をする後に続き、朴たちも唱和する。（P117）

平壌中 000 010 000—1
海草中 303 024 00A—12

「平和の祭典のオリンピックもなくなり、甲子園も中止とは、バットより小銃、白球より手榴弾ちゅうこっちゃな」

西はさばさばした声で、小銃を構える姿勢をする。

去年の昭和十五年に、アジアで初めて行われる予定だった東京オリンピックは、日中戦争の影響などで中止となった。（P131）

これが隼だ！

隼二型

武装は機首に装備している口径7・7ミリの八九式固定機関銃、もしくは口径12・7ミリの一式固定機関砲が二門だけだ。朴の機体には一式固定機関砲が付いている。海軍の零戦のように、翼に20ミリ機関砲などは装備されていない。

隼より重武装の二式戦闘機——鍾馗や、三式戦闘機——飛燕、四式戦闘機——疾風などの最新鋭戦闘機もあるが、飛行第六十四戦隊は、まだ機種改変されていない。

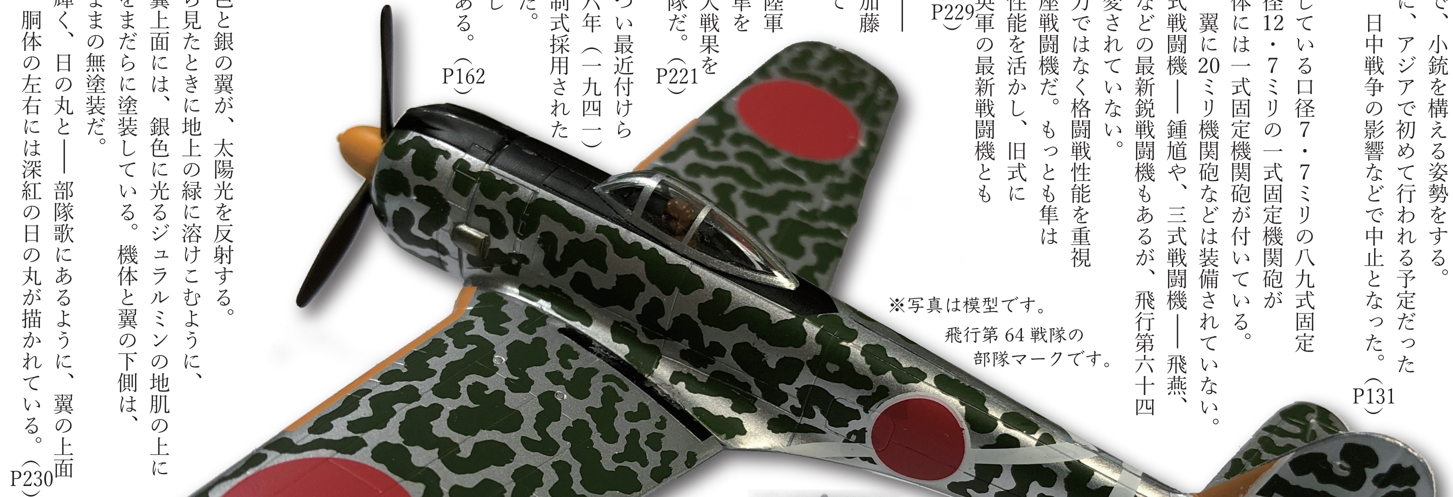
もともと隼は、火力ではなく格闘戦性能を重視して設計された軽単座戦闘機だ。もっとも隼はその素晴らしい運動性能を活かし、旧式になったとはいえ、米英軍の最新戦闘機とも互角に戦っていた。（P229）

飛行第六十四戦隊——隊長でかつ撃墜王の加藤建夫中佐の名を取って「加藤隼戦闘隊」と呼ばれている。日本陸軍の主力戦闘機である隼を装備し、南方戦線で大戦果を挙げつづけている部隊だ。（P221）

隼——一式闘機につい最近付けられた愛称だ。昭和十六年（一九四一）の皇紀二六〇一年に制式採用された最新鋭の陸軍戦闘機だ。あの日の戦闘機と同じ中島飛行機の開発である。（P162）

濃緑色と銀の翼が、太陽光を反射する。上空から見たときに地上の緑に溶けこむように、胴体と翼上面には、銀色に光るジュラルミンの地肌の上に濃緑色をまだらに塗装している。機体と翼の下側は、銀色のままの無塗装だ。

翼に輝く、日の丸と——部隊歌にあるように、翼の上面と下面、胴体の左右には深紅の日の丸が描かれている。（P230）



※写真は模型です。

飛行第64戦隊の部隊マークです。

戦前外地からの甲子園への道

平壌
朝鮮
京城
釜山
広島

朝鮮半島の五地域——北鮮、西鮮、中鮮、南鮮、湖南の各予選大会を勝ち上がった五チームは、古くからの朝鮮の都——京城（現ソウル）に集まり、今日の七月二十七日から最終予選大会を戦っていた。京城を取りかこむ城郭の東門として、五百年以上前からそびえる興仁之門——東大門、その南にある京城運動場野球場が会場だ。（P18）

京城運動場野球場

路面電車から降りた吉永は、真っ赤な夕焼けを背景にそびえている赤煉瓦の京城駅を、しばし時間を忘れて見つめた。銅板葺きの丸屋根と尖塔に、夕陽が反射して輝いている。十五年前の大正十四年（一九二五）に完成した駅舎だ。帝都の東京駅に次ぐ東洋第二の規模と言われている。重厚な西洋と東洋の折衷主義の駅は、多くの人声と汽笛にあふれていた。（P88）

京城駅

「同じ外地の満洲代表や台湾代表は、準優勝したことがある。なのに朝鮮代表は準々決勝止まりだ。二勝すらしたことがない。しょせん朝鮮には——無理なんだ」（P45）

中島九一式戦闘機——平壌の青空を軽やかに舞った、あの美しい姿を忘れたことはない。（P28）

尾翼には飛行第六十四戦隊の部隊印である、大きい斜矢印が書かれている。まるで矢印が胴体の日の丸を指しているように見える。色は赤——第二中隊の色だ。朴の隼も同じだ。（P231）

佃は吉永と同じ夏用の第二種航空衣袴を着ている。頭には茶色い革製の航空頭巾をかぶり、今は航空眼鏡を、頭巾の額部分にある五芒星——星章まで引きあげている。

茶色の航空衣袴の上には、落下傘をつなげるための緑色の操縦者用九七式縛帯を締めている。落下傘は座席に座布団のように敷いてあり、操縦中は縛帯と落下傘を連結させる。足元は長靴型の茶色の航空靴だ。（P197）

中島九一式戦闘機

朴が搭乗している隼二型の急降下速度は時速六百キロメートルになる。背中から追ってくるハリケーンより速いはずだ。

振りきれる——そう思ったが、距離は同じままだ。発動機の轟音が操縦席に響く。急降下に両翼がしなり始める。息が荒くなる。（P219）

百式射撃照準器の透明反射ガラスに映る照準環には、橙色の輪が三重に光っている。敵機はまだ一番小さい円環の半分にも満たない大きさ——距離約三百メートルだ。

まだまだ近づかなければ、一撃で仕留められない。発動機の轟音が聞こえなくなり、心臓の鼓動だけが大きくなる。冷静に機械のように右手で操縦桿と両足で足踏ペダルを操作する。（P262）

先端には信管と安全装置の風車、風車押さえ、が付いている。風車押さえを外してから、爆弾を投下すると空中で風車が回転して脱落して激発状態になる仕組みだ。隼には不釣り合いな暗灰色の二百五十キロ爆弾に映る夕陽の影を、朴は手のひらで、ゆっくりとなぞった。（P317）

「美しい戦闘機ってのは強いんです。ただこいつは美しくない。と号整備なんて自分たちだって本当はしたくないんです」

軍曹の視線は、翼下の二百五十キロ爆弾に向いている。（P422）

※数字は本文中のページ番号です。